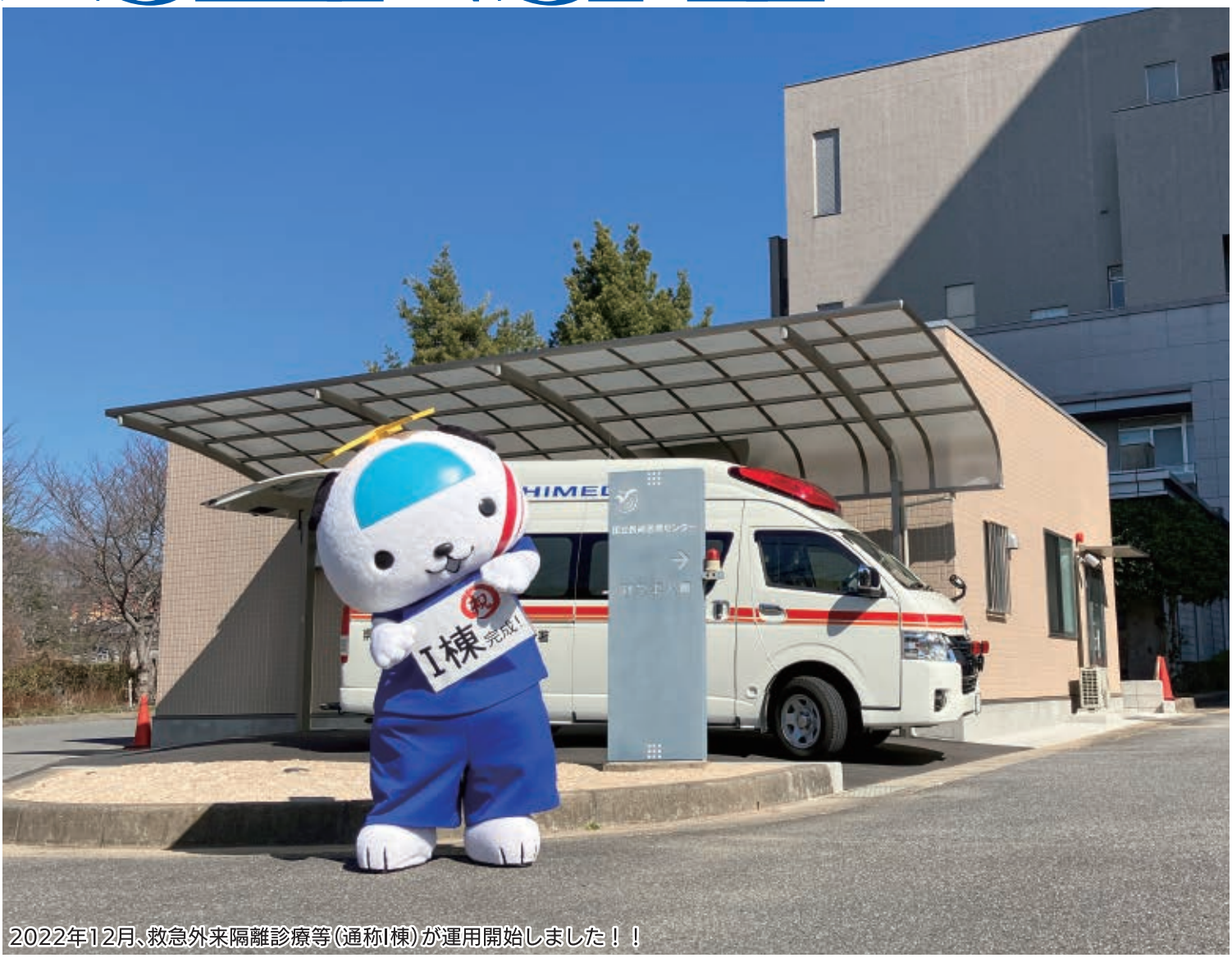
長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

専齋 SENSAI

2023 FEBRUARY VOL.410

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292



2022年12月、救急外来隔離診療等（通称I棟）が運用開始しました！！

医長紹介～私の専門分野～

整形外科医長　森 圭介

TOPICS

- 救急外来隔離診療棟（I棟）運用開始!
- 外科ハンズオンセミナー
- 研修医Award受賞報告
- 第4回SGHがん看護研究助成 獲得報告
- 良質な医師を育てる研修に参加して

ガーデニング便り Vol.3

院内さるく 治験管理室

春の医学生見学会のお知らせ

診療放射線部だより Vol.5

看護部だより Vol.48

医療相談支援センターからのお知らせ

長與 專齋（1838年～1902年）

大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

整形外科医長　森　圭介

一生青春

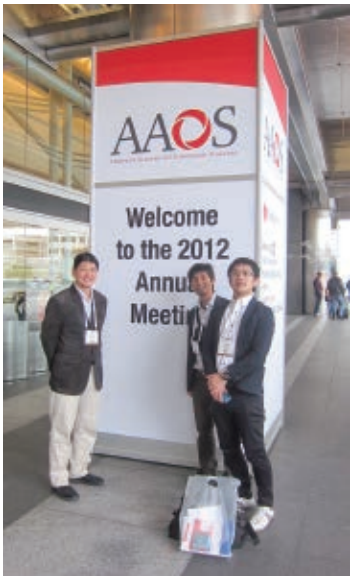




初めまして。整形外科の森圭介と申します。整形外科の専門医習得後より長崎大学病院 救命救急センターの外傷センターで6年間（うち1年、国内留学）勤務した後に、令和2年度より当院に赴任しました。

現在、整形外科分野の中でも骨折などの救急外傷を専門として日々の勤務に従事しております。研修医時代、骨折を固定する原理や股関節を骨折した高齢の患者さんが手術翌日から歩行練習をしている姿に興味を持ち、整形外科に入局した時から救急外傷を専門にしたいと思っていました。当時（平成23年）、日本では外傷という分野は整形外科の中でもまだ一般的ではありませんでした。しかしながら、幸いなことに入局した年に今年度から整形外科の部長として赴任されました宮本俊之先生を中心として長崎大学病院に外傷センターが設立されました。それにより長崎市内の外傷の患者さんが集約化されて、質の高い教育を受けることができました。

現在、当院では県央地区での交通事故などの多発外傷の症例に加えて、特に合併症を有した高齢者の骨折症例を集約化して質の向上に力を入れております。例えば、最も症例の多い高齢者の股関節の骨折を例にとると現在当院に来院してから約75%は24時間以内、約93%は48時間以内に手術を受けて、手術翌日より起立歩行訓練を許可できるような手術を行っております。今後も、医療スタッフが楽しく働きつつも世界基準の救急外傷医療を提供できるようなシステム構築に尽力していきたいと思います。



国際学会in アメリカ



外傷センターin 長崎大学病院


長崎医療センター　整形外科スタッフ

TOPICS

救急外来隔離診療棟（I棟）運用開始!

高度救命救急センター長　中道 親昭

2020年1月に端を発し、現在も猛威をふるっている新型コロナウィルス感染症（以下コロナと略）ですが、当院においてもその時々に応じた対応策をとって参りました。2021年10月1日県央医療圏（諫早・大村両市・東彼3町）の第二種感染症指定医療機関に指定され、当院の果たす重要性がさらに増したわけですが、感染症専用入院病床は整備されたものの外来診療を行うユニットはありませんでした。プレハブ・テント診療等でしのいできましたが、酷暑、寒冷、強風雨など天候の影響を多大にうける過酷な労働環境でした。

元来当院は感染症のみならず、農薬・化学薬品汚染、原子力災害等の隔離診療を要する救急患者の受入医療機関ですが、本館外で診療する場所を有していませんでした。そこで今回のコロナ対応を契機に救急外来に隔離診療棟を建設することといたしました。



2021年6月に設計するところから開始、事務部門・総合情報センター・高度救命救急センター等複数部門のスタッフの多大な御協力のもと何とか2022年内に完成いたしました。救急外来において隔離（Isolate）を要する診療スペースであるため、通称を“I棟”といたしました。空調及び陰圧装置が完備された平屋内に5区画を有し、収容人数はウォークイン1名及び救急搬送1名を基本としていますが、必要に応じて救急搬送3名まで同時に受入可能なスペースを有しています。帰宅可能な程度から人工呼吸器等の集中治療導入等、軽症～重症コロナならびにコロナ陽性の一般救急のいずれも対応可能な能力を有しています。2022年12月28日より運用開始し、同日よりフル活用している状況です。冬季における第8波の最大発生数に向かう前に導入出来、胸をなでおろしているところです。

I棟利用に関しては試行錯誤している現状ではありますが、大きなトラブルなく運用出来ております。ただし限りある医療資源でもありますので、これまでと同様、県央保健所及び近隣医療機関の皆様とのコミュニケーションのもと、有効な連携体制の維持が出来れば幸いに存じます。引き続き皆様のご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

TOPICS

外科ハンズオンセミナー

外科医師　福井 彩恵子

初期研修医・看護師対象の医療手技トレーニングを行いました。定期的に外科が主催する当企画ですが、エコーガイド下穿刺、縫合、腹腔鏡手術など、終始手を動かし活気に満ちた会となりました。

（2022年12月22日 開催）









TOPICS

研修医Award受賞報告

2年次研修医　堤 春菜



2022年11月に開催された第84回日本臨床外科学会総会で「当院における上腸間膜動脈塞栓症の検討」を発表し、研修医Awardを受賞しました。この疾患は、腸を栄養する血管が閉塞することで全身状態を急速に悪化させる救急疾患です。今回、外科研修中の経験も踏まえ、救命のための早期診断につながる所見を明らかにしました。ご指導いただいた外科の先生方に感謝申し上げます。今後も多くの方の役に立てるよう励んで参ります。

TOPICS

第4回SGHがん看護研究助成獲得報告

手術室看護師　立花 玲華



この度、研究課題名「全身麻酔下開腹肝胆膵悪性腫瘍手術におけるディスポーザブルリトラクター使用時の皮膚障害予防の検討」が、第4回SGHがん看護研究助成に選出されたことを報告します。

肝臓・胆嚢・膵臓における開腹術では、視野確保器具の一つとしてリトラクターを使用していますが、これを使用することで皮膚障害が頻発していました。そこで本研究では、リトラクター使用に伴う皮膚障害を予防する有用な方法を明らかにすることを目的としました。開腹肝胆膵悪性腫瘍手術を受ける患者にとって、周術期皮膚障害発生による二次障害を予防することに繋がり、患者が安心を感じながらエビデンスを持った看護を受けることができることを期待しています。

TOPICS

良質な医師を育てる研修に参加して

脳神経内科医師　辻野 耕平

2022年11月12日に仙台で開催された「良質な医師を育てる研修ー神経・筋 診療中級研修」に参加させていただきました。勉強会では高次機能障害、てんかん、パーキンソン症候群などの幅広い内容を、講義だけでなく、ディスカッションやグループワークを交えて学びました。神経・筋疾患で歩行機能が低下した人をサポートするロボットスーツの見学もできました。自分がこれまで身につけた知識・技術をブラッシュアップすることができたと思います。コロナ禍でなかなか対面での勉強会ができない中、同年代の脳神経内科を志す医師たちが集い、切磋琢磨し合うことができ、非常に有意義な研修でした。学んだことを今後の診療に活かしていきたいです。





ガーデニング便り
Vol.3

今回紹介するのは、ハボタンです。ハボタンは水枯れ・寒さに強くとにかく手間いらずで育てやすいです。最近では種類も豊富で色のバリエーションも多いので寄せ植えで楽しめます。こちらも冬の定番フリルのシクラメンと合わせてみました。

副院長　黒木 保



院内さるく

治験管理室

治験管理室は、小森室長の下、薬剤師・看護師・検査技師・事務助手の多職種スタッフで構成されています。

患者さんにご協力いただき、倫理性や科学的質の確保に注意しながら、厚生労働省から「薬」としての承認を得るために行う「治験」に関する業務が中心ですが、院内研究の支援も行っています。治験を実施する上では各部署のご理解とご協力が必要になります。治験が円滑に進むよう、これからもよろしくお願いいたします。







春の医学生見学会のお知らせ

【対　　象】 医学部4・5年生

【見 学 期 間】 **2023年3月1日(水)～3月22日(水)**
※火曜～金曜日

【募集学生人数】 1日に5名程度。

【応 募 期 間】 2月10日(金)より受付開始

【申 込 方 法】 当院ホームページ(https://nagasaki-mc.hosp.go.jp/)をご覧ください。

スーパーローテート50年の歴史。
1000名以上の研修医を育てた
実績を持つ長崎医療センターの
『教える伝統』を体験ください。

診療放射線部だより Vol.5

主任診療放射線技師　長岡 慶繁

診療放射線部は総勢32名（診療放射線技師27名、放射線部助手5名）で構成され、日々チーム一丸となって診療に従事しています。また、放射線技術は日々進化を続けており、患者さんに最適な検査・治療を提供できるよう日々研鑽しています。

私達にとって放射線機器は必要不可欠であり、今回はその1つであるX線撮影装置について紹介したいと思います。



臨床画像セミナー開催



X線撮影装置

X線撮影装置とは、胸部・腹部や骨のX線撮影を行うときに使用する装置で、皆さんになじみのある機器と思います。

昨年3月に、4つある撮影室の1部屋が最新のX線撮影装置に更新されました。

最新のフラットパネル①を有しており、従来の装置に比べ約60%の被ばく線量低減が可能となりました。

更に今回の更新で、特にこだわったところが内装です。患者さんに少しでも癒していただけるよう森林をイメージし仕上げました。今年3月には、国立長崎中央病院時代から使用しているX線撮影装置2台が更新されます。導入にあたり、今後も患者さんの待ち時間短縮を目指し、ホスピタリティにあふれる撮影室を目指していきたいと思います。

フラットパネルの特徴

① 被ばくの低減

② 撮影時間の短縮
→待ち時間の短縮

① X線フイルムの代わりに、人体を通過したX線を受けて画像化する医療機器

看護部だより Vol.48

実習専任化に向けた取り組み

実習指導者コース担当
9A病棟師長　榊原 チハル

今年度、看護部の目標の一つに、“実習指導者の専任化を進め、実習環境を整えること”があげられました。これは、未来の看護師の卵を育成すると共に、長崎医療センターの看護師と一緒に働きたいという気持ちを持ってもらうという意味も込められています。

取り組みその1

各病棟に実習指導者を選定（可能な限り）
→継続して指導ができる環境を調整

取り組みその2

実習指導者コースの立ち上げ
→実習指導時の困りごとを解決できるような内容の研修を実践

実習指導者として頑張っています！





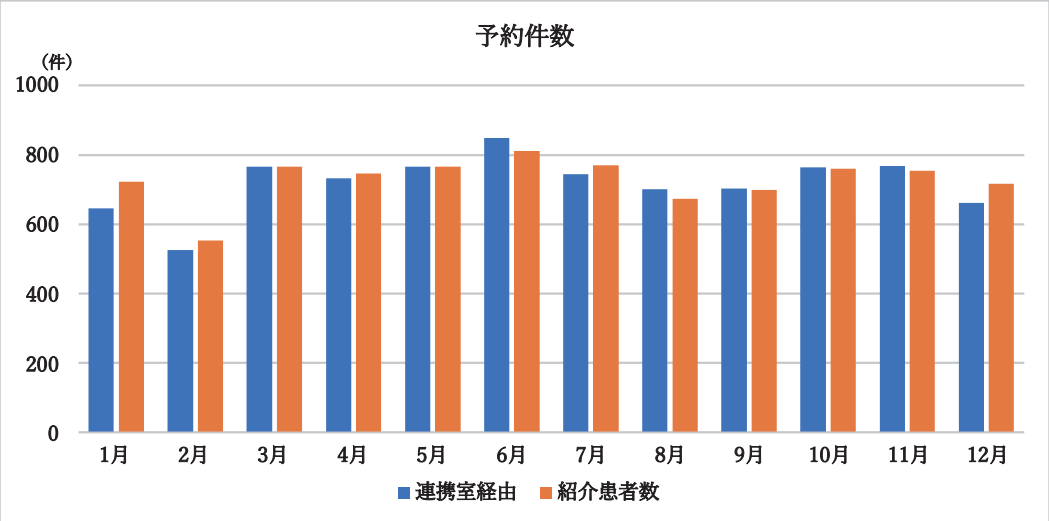


多様性が回避できない現代において、指導者が柔軟性を持って指導を行う事も求められます。しかし、実習指導において何より大切な事は、**「看護が楽しい」「看護師という仕事は素晴らしい」**ということを、現場で伝えられる実習指導者が一人でも多く育ってくれること、これが何より重要だと思っています。

医療相談支援センターからのお知らせ

2022年1月から12月の実績報告

日々のご紹介ありがとうございます。2022年のご紹介状況を報告させていただきます。



◆紹介元病院所属医師会別

医師会	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
大村市医師会	328	281	413	385	415	455	382	371	373	413	423	348	52.7%
諫早医師会	154	124	167	173	160	191	165	140	156	174	155	149	22.6%
南高医師会	34	25	47	30	34	36	44	42	32	35	41	42	6.4%
島原市医師会	44	26	59	46	58	75	60	77	48	54	59	56	8.5%
東彼杵郡医師会	18	16	19	23	15	18	20	19	17	25	21	12	1.8%
その他	67	53	59	74	82	73	73	50	76	62	68	53	8.0%
計	645	525	764	731	764	848	744	699	702	763	767	660	

旧年は新型コロナウイルス感染症の対応などで各関係医療機関、大村市、県央地域の先生方には大変お世話になりました。

2023年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

理　念

高い水準の知識と技術を培い
さわやかな笑顔と真心で
患者さん一人一人の人格を尊重し
高度医療の提供をめざす

長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、地域拠点病院として住民の皆さんと医療機関からの信頼を得ることを使命としています。

- 安全で質の高い医療を提供する
- 救急医療の最後の砦となる
- 地域の医療機関、行政と密接に連携する
- すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
- 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する